

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体			
		<b>Q 建築物の環境品質</b>						<b>3.2</b>	
<b>Q1 室内環境</b>									
<b>1 音環境</b>									
1.1 室内騒音レベル		-	-	-	-	-			
1.2 遮音									
1 開口部遮音性能		-	-	3.0	-	-			
2 界壁遮音性能		-	-	3.0	-	-			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	-	-			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	-	-			
1.3 吸音		-	-	3.0	-	-			
<b>2 温熱環境</b>									
2.1 室温制御									
1 室温		-	-	3.0	-	-			
2 外皮性能		-	-	3.0	-	-			
3 ゾーン別制御性		-	-	-	-	-			
2.2 湿度制御		-	-	3.0	-	-			
2.3 空調方式		-	-	3.0	-	-			
<b>3 光・視環境</b>									
3.1 屋光利用									
1 屋光率		-	-	3.0	-	-			
2 方位別開口		-	-	3.0	-	-			
3 屋光利用設備		-	-	-	-	-			
3.2 グレア対策									
1 屋光制御		-	-	-	-	-			
3.3 照度		-	-	-	-	-			
3.4 照明制御		-	-	-	-	-			
<b>4 空気質環境</b>									
4.1 発生源対策									
1 化学汚染物質		-	-	3.0	-	-			
4.2 換気									
1 換気量		-	-	3.0	-	-			
2 自然換気性能		-	-	3.0	-	-			
3 取り入れ外気への配慮		-	-	3.0	-	-			
4.3 運用管理									
1 CO <sub>2</sub> の監視		-	-	-	-	-			
2 喫煙の制御		-	-	-	-	-			
<b>Q2 サービス性能</b>			0.43			<b>3.6</b>			
<b>1 機能性</b>									
1.1 機能性・使いやすさ									
1 広さ・収納性		-	-	3.0	-	-			
2 高度情報通信設備対応		-	-	3.0	-	-			
3 バリアフリー計画		-	-	-	-	-			
1.2 心理性・快適性									
1 広さ感・景観		-	-	3.0	-	-			
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-	-			
3 内装計画		-	-	-	-	-			
1.3 維持管理									
1 維持管理に配慮した設計		-	-	-	-	-			
2 維持管理用機能の確保		-	-	-	-	-			
<b>2 耐用性・信頼性</b>		3.1	0.50			3.1			
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50						
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80						
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20						
2.2 部品・部材の耐用年数		3.0	0.30						
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.22						
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.22						
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		-	-						
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.11						
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水:VLP(B)、汚水排水:VP(B)、消火:SGP(C)。評価Eの管材は使用無。	5.0	0.22						
6 主要設備機器の更新必要間隔		2.0	0.22						
2.4 信頼性		3.6	0.20						
1 空調・換気設備	重要度によりシステムを区分。熱源種を分散している。	4.0	0.20						
2 給排水・衛生設備		3.0	0.20						
3 電気設備	非常用発電設備を備えている。電源車接続時に使用可能な照明を備えている。	4.0	0.20						
4 機械・配管支持方法	設計用水平震度KH1.5以上。	4.0	0.20						
5 通信・情報設備		3.0	0.20						

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>4.2</b>	0.50	-	-	<b>4.2</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>5.0</b>	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	各階階高3.9m以上を確保。	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率<0.1	5.0	0.40	-	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>5.0</b>	0.30	-	-	
倉庫の積載荷重は4,500N/m <sup>2</sup> 以上を確保。							
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	0.57	-	-	<b>3.0</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
<b>3.1 地域性への配慮、快適性の向上</b>			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>3.2 敷地内温熱環境の向上</b>			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>4.0</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	0.40	-	-	<b>4.5</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>			[BPI][BPI <sub>m</sub> ]= 0.64	<b>5.0</b>	0.20	-	<b>5.0</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>				<b>3.0</b>	0.10	-	<b>3.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>			[BEI][BEI <sub>m</sub> ] = 0.43	<b>5.0</b>	0.50	-	<b>5.0</b>
<b>4 効率的運用</b>				<b>3.5</b>	0.20	-	<b>3.5</b>
集合住宅以外の評価				<b>3.5</b>	1.00	-	
4.1	モニタリング	BEMSの使用。主要な用途別エネルギー消費の内訳を把握して、妥当性を確認できる。	4.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	0.30	-	-	<b>3.6</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.4</b>	0.20	-	-	<b>3.4</b>
<b>1.1 節水</b>				<b>4.0</b>	0.40	-	
節水型器具の採用。							
<b>1.2 雨水利用・雑排水等の利用</b>			<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>3.7</b>	0.60	-	-	<b>3.7</b>
<b>2.1 材料使用量の削減</b>			3.0	0.10	-	-	
<b>2.2 既存建築躯体等の継続使用</b>			3.0	0.20	-	-	
<b>2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用</b>			3.0	0.20	-	-	
<b>2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</b>			磁器質タイル:床、ボード:天井、ビニル床材:床	5.0	0.20	-	-
<b>2.5 持続可能な森林から産出された木材</b>			2.0	0.10	-	-	
<b>2.6 部材の再利用可能性向上への取組み</b>			躯体+軽鉄+テイルを採用。EPS及びFEP電線管の採用により配線・配管が躯体及び仕上材自体に打ち込まれていない。	5.0	0.20	-	-
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.6</b>	0.20	-	-	<b>3.6</b>
<b>3.1 有害物質を含まない材料の使用</b>			PRTR法に該当しない建材種別が3つある。	<b>4.0</b>	0.30	-	-
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>				<b>3.5</b>	0.70	-	-
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	ODP=0、GWP=11の断熱材とODP=0、GWP=1の断熱材を使用。	4.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	0.30	-	-	<b>3.7</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>			LCCO <sub>2</sub> 排出率60%	<b>4.6</b>	0.33	-	<b>4.6</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>3.5</b>	0.33	-	-	<b>3.5</b>
<b>2.1 大気汚染防止</b>			燃焼機器を使用していない。	<b>5.0</b>	0.25	-	-
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>				<b>3.0</b>	0.50	-	-
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>				<b>3.0</b>	0.25	-	-
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.1</b>	0.33	-	-	<b>3.1</b>
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
<b>3.3 光害の抑制</b>			<b>3.7</b>	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策ガイドラインのチェックリストの一部を満たす。また、広告物照明の扱いの配慮事項の過半を満たす。	4.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	